

## 令和3年度大阪府立箕面東高等学校「第3回学校運営協議会」報告

【日時】令和4年3月9日（木） 14：00～

【方法】対面式 欠席の方からは電話・メール等で意見聴取

【出席者】

学校運営協議会委員：伊東 義輝（大阪成蹊短期大学）

横谷 さゆり（本校PTA会長）

篠崎 朗（本校同窓会会長）

橋本 敏（箕面市立第六中学校校長）

校長：尾形 政則

事務局：川上 慶次郎（教頭）、末永 惣彦（教頭）、長崎 孝（首席）、

室田 真幸（首席）、今西 隆司（事務長）

### 報告事項

#### 1 学校教育自己診断アンケートについて

1月16日くらいからアンケートを実施

コロナ関連での出席停止、およびChromebookを使用していたため、例年より少ない回答となった。そのためか、例年より概ね良い結果となった。

<質問・意見等>

C委員：兄弟に箕面東をすすめたいが22%ですが、どのへんを教職員としてはすすめたいか。

教頭：子供の意見を聞いて、校則等は見直さねばならないかもしれない。進路指導に関しては生徒の意見を尊重して進めている。出席に関しては声掛け等、苦勞する部分もある。

E委員：生徒、保護者、教職員への各アンケート回答から、概ね生徒と教職員の相互理解ができていたように思ったが、保護者と職員(学校)の相互理解については隔たりがあることを感じた。特に自由記述にあるように、学校不信の声があることに対しては、誤解や保護者側の一方的な考えもあると思うが真摯に向き合う必要があると思う。学校として保護者の意見にどのように対応しているのかが気になった。

#### 2 令和3年度卒業生進路決定状況について

昨年度と卒業生の数はあまり変わらない。大学・短大進学者の数はほぼ同じ。今年度は専門学校希望者が減り、就職する生徒が大きく増えた。コロナ感染症拡大の影響を受けた結果かと思われる。大学・専門学校では看護を志望する生徒が増えた。

<質問・意見等>

A委員：看護志望者は増えそうか？

首席：現在の2年生は看護志望が少ない。ただ、ES5期も最初から看護志望ではなかったか

ら、これからの期待する。

C 委員：専門学校に関して奨学金はないのか？

首席：大学・短大ほどではないが 80～90%の専門学校が対応している。ただし、多くの専門学校が独自に奨学金制度を設けている。

C 委員：コロナ感染症の影響で奨学金返済に不安を感じ、専門学校志望生徒が減ったのか？

首席：奨学金がおとりなのは入学後なので、事前に支払うことが難しいと思った可能性はある。

E 委員：コロナ禍の影響か、去年は前年より落ち込んだ感があったが、今年は少し持ち直したように思う。

## **協議事項**

### 1. 令和3年度学校経営計画及び学校評価について

#### (1) わかる授業・学ぶ意欲を喚起する授業

授業アンケートの平均値は 3.39 となり、昨年の 3.34 を上回った。国数英の理解度の肯定率は 82%と、昨年の 74.9%から大幅に向上した。(◎)

「わかりやすい授業」の肯定率は 89.1%、昨年の 80.3%をかなり上回った。

ICT 機器については、ほとんどの教職員が C-learning というアプリを使い、年度後半にはタブレット端末の活用の準備を始めた。

#### (2) キャリア教育の充実

「総合的な探求の時間」「産業社会と人間」といった、生徒に考えさせたり表現させたりする授業の肯定率は、80.8%と目標を上回った。

昨年から、韓国の光陽女子高校との Web 交流は 4 回実施。国際理解教育は活発に行うことができている。

進路指導に関する肯定率も、84%と高い評価が出ている。

デュアルシステム（職場体験実習）については、コロナウイルス感染症の影響で、思うように実習ができなかった。その、できなかった時間を活用して「子育て支援プロジェクト」を行い、子育てをしている人へのアンケート調査を行い、冊子にまとめた。この活動が、「このころの再生」府民運動で表彰されている。

#### (3) 生活指導と生徒支援体制の充実

学校教育自己診断での「ルールを守っている」という回答は 94.8%と高い水準。

部活動については、加入率が 32%と厳しい状況が続いている。

今年度は、コナミスポーツと提携し、コナミがトレーニング機器を持ち込み、部活動の指導にトレーナーを派遣する事業を始め、一定の成果をあげた。

障がいのある生徒への支援では、学習が苦手な生徒でも、学校に登校し、まじめに授業に取

り組めば、その頑張りを評価するよう工夫をしている。

不登校生徒が一定数いるが、メイプルカフェ等の居場所事業や、教員による生徒支援等によって、なんとか頑張っているという状況。

#### (4) 広報活動の充実

新たな宣伝用の映像を制作したほか、学校のHPを全面的に作り変えた。また、箕面東高校公式Instagramを始めた。

オープンスクールは、第1回がコロナ休校で中止になった。第2回～第4回の人数は昨年を上回ることができた。

宣伝活動については、思いつくことを全部行っているが、それが志願者の増加には必ずしも結びついていない状況がある。

今回の入試では174名の志願者がいた。今後、追試験・二次募集等があり、最終的な入学者は170名～180名のあたりになる見込み。ここ2年間と同じ程度になる。

#### (5) 教職員の働き方改革

教員全体の超過勤務時間は、3年12月末集計で、月平均28時間と、昨年より12%改善した。一方、ストレスチェックの数値は115と悪化している。

「働き方改革を意識した取り組み」の肯定率は29.5%、昨年度の15%から倍増している。教職員の働き方改革は、今後重点的な課題として、頑張らなければならないと考えている。

E委員：ここ数年の社会状況の中で、生徒の気持ちを汲みながら学校生活を充実させようと工夫されている取組みが色々と見受けられた。

デュアルシステムに見られるように、地域や企業との連携で貴重な社会との接点を経験できることは箕面東の魅力だと思う。ホームページも大変見やすく動画なども楽しく拝見している。また、地域課題に向き合った「子育て支援プロジェクト」など、私たちNPOでもなかなか取組めないことに積極的にぶつかって行く行動力には感動した。血の通った学習の場が提供できる箕面東高校をもっと外部に向けて発信してほしいと思う。

## 2. 令和4年度学校経営計画について

### 中期的目標

いよいよ1年生から、新しい学習指導要領が実施される。新しい学習指導要領に則った授業・評価が行われることが大切になる。

今年まではC-learningというスマホアプリを使っていたが、来年度は一人一台端末の活用が本格化する。

キャリア教育・進路指導については、3年間を通した系統的なプログラムを再建するよう、進路指導部と話をしている。

#### 本年度の取組内容

全教諭がタブレット端末を教育活動に活用するようにしする。

エンパワメントスクール用に、タブレット端末が50台ある。この端末を教諭にも配布して、活用を促す予定。

障がい理解教育、国際理解教育については、次年度も積極的に取り組めるよう、すでに準備をはじめている。

地域の社会資源を活用した教育活動は、この間のコロナの影響もあって、この2年間は低調だった。地域連携は本校の売りの一つなので、何とか打開したい。

部活動の加入率の低迷が大きな課題。今年始めたコナミスポーツとの提携事業も活用しながら、なんとか加入率を高めるアプローチをしたい。

障がいのある生徒の支援については、令和4年度から通級による指導が始まる。

広報については。思いつくことは全て改善をしてきました。まずは、それを丁寧に継続し質を落とさないことが大切。その上で、何か新たな策というか、方針だてをしないとけない。

教員の働き方改革については、すぐにでも本気で取り組む必要がある。教員になろうという人が、どんどん減っていて、教員採用試験の倍率は下がる一方だ。そこにはノークラブデーのことぐらいしか書いてないが、業務を洗い出し、削れるものはどんどん削るような動きを作れたらと思っている。また、先ほど挙げたコナミとの提携事業だが、これが本格化し、参加するクラブが増えるとクラブ顧問の教員の負担が減ることが期待できる。

#### 意見・質問

C 委員：部活動がコロナの関係もあって活性化されていない。保護者が学校のことに無関心では？モジュールで基礎学力が向上しているのは、母親は知っていても父親まではそのことを知らないのでは？保護者、そしてもっと外に向けてモジュール授業のことをアピールされては？まず、中から、つまり保護者にもっと広めるべきでは？

A 委員：部活動に関しては、最初の1～2か月が勝負。コナミとの取り組みは非常に良いと思う。中学生にもアピール力があるはず。部活動活性のためにコナミとの連携の部分を強化されては？アンケート結果から、生徒指導に力を入れているのがわかる。

D 委員：通級指導開始について、具体的に決まっていることは？

校長：2月末に急に言われたことなので、まだ具体的には決められていない。まず、最初の半年は対象者、関係者とともに土台づくりをしたい。本格的には後期からと考えている。来年度通級にかかわる教員には声掛けは始めている。先に始めている柴島高校な

ども見学に行きたいと思っている。

E 委員：今年度の方針をより前に進める学校経営計画について、外部との連携協力を得ながら箕面東高校の魅力が広がるような実績を望む。

ただ学校に求められるものも多岐に渡っているので、優先順位を定めながら教職員の皆さんの負担がさらに増えないような運営を望む。

また、「メイプルカフェ」のような子どもの居場所の必要性もますます高くなってくると思う。

F 委員：定員割れの中での将来的ビジョンと不登校生徒の改善に強く問題意識を持っている。

令和4年度学校経営計画承認。